



2020
2
February Vol.47

JAしまねびより

今月の特集 島根のいいもの再発見!! 「斐川町 ミニトマト」 斐川地区本部



直通 Naomichi

万九千神社
出雲市 斐川町



島根には誇れる農産品がたっぷり！

島根のいいもの 再発見!!

直撃・生産者インタビュー

斐川町 ミニトマト

2月は、斐川地区本部。出雲市斐川町でミニトマト栽培に取り組む玉木真二さんにお話を伺ってきました。



お話を伺った玉木真二さん。

思いがけない形でスタートした就農

玉木さんが経営する玉木農園は、元々祖父の代からタバコ栽培を始めた後、ぶどう栽培に代わり、それに加え父親がミニトマトと野菜・花苗を栽培するようになりました。家族経営の農園で育った玉木さんは幼い頃から「いずれは自分も農業をやるんだろうな」という漠然とした思いを抱いていましたが、農業系の学校を卒業後は一旦JAに就職。職員として農業関係の仕事に携わっていました。そんな中、そろそろJAを辞めて家で農業を始めようと決断した矢先に、父親が病気で他界。思いがけない形で後を継ぐこ

とになりました。

5年間 手探り状態で続けてきた

玉木さんはそれまで実際に畑に入って本格的に農業をすることがなかったため、父親と一緒に作業をするという機会もありませんでした。記録用のノートなどは残されておらず、栽培方法やコツなど父親が長年築きあげてきたやり方は一切手元に残っていませんでした。ずっと農園を手伝っていた母親も技術的な面は教えてもらっていませんでした。そのため、当時のことを「本当に何もわからない状態でした。戸惑いながらも手探りでなんとかここまでやってきたという感じです」と振り返る玉木さん。基本的なやり方は父の代から所属していたトマト部会の先輩に聞いたり、水耕栽培用の機械メーカーの担当者に聞いたり一から努力を重ね、今日までハウス11棟の管理を維持してきました。

2つの栽培方法で育てる ミニトマト

玉木農園では、水耕栽培と土耕栽培でミニトマトを育て



土耕栽培のハウス。こちらは主枝を上へ伸ばしていく。



水耕栽培のハウス。1年という長い間ずっと植えたままにしているため、主枝を横へ伸ばしていく。

ています。水耕栽培は根を水に浸す方法で、土と接していないため衛生的で病気になるにくいと言われています。そして、成長が早く肥料をやればすぐに効果が出ますが、反対に少しでも間違えたり、病気が発生した場合もすぐ全体に広がってしまうという難点も。それに対して、土耕栽培の場合は生育が緩慢なため、



ハウスの中の温度は12℃に設定。日中はビニールを開け、太陽の光を浴びさせる。太陽の光が当たらないと赤く色付かない。

病気が発生しても直ちに何かしらの手立てを打てば全体に広がる恐れが低いという利点があります。

ミニトマトの苗は、近年、低段密植が主流と言われていますが、ここでは水耕栽培の場合、一度植えた苗は1年間そのままにしているそう。植え替えの手間や、植えた後2ヶ月は収穫できないため経済的な面からこの方法を採用しています。その間、追肥や防除などの管理を徹底的に行っています。

気軽に食べてもらえる ミニトマトを目標して

現在ハウスでは、CF千果、サンチェリー、アイコなど5、

6種類のミニトマトを栽培。週3日、パート5名と共にひとつひとつ手作業で収穫。その日のうちにパックに詰め、出荷します。最近では、高糖度トマトのようにスイーツ感覚で食べられるものが好まれる傾向にあります。その場合栽培にコストがかかります。その分販売価格も高くなっています。玉木さんが目指すミニトマトは、気軽に手に入り、お弁当のおかずにしてもらえらるような存在。そういう理由からも、甘みと酸味のバランスが取れ、量産できるミニトマトを作っています。



「あなたのところのミニトマトを買って食べたら美味しかったよ」と言われることが一番嬉しい。

農家だからこそできる 地域活性に向けた活動

玉木さんは農業の傍ら、仲間と共に地域活性に向けた取

り組みを積極的に行っています。数年前に町のシヨッピンセンターがなくなってしまうたことをきっかけに、その近くのコミュニティセンターで年1回「ひかわキレイマルシェ」というイベントを開催。農家や各分野の20、30代の若手メンバーが中心となり、計画から運営までを実行しています。将来的には玉木農園で産直を作り、この農園でできたミニトマトや野菜・花苗をはじめ、地元の農家が色んな野菜を売る場所になればと構想を練っています。こういった活動を通して、この地域で作られたものをもっと皆さんに知ってもらい、農家と消費者がどちらも満足できるように仕組み作りに向け動き出しています。

新しい視点で 次世代へ繋ぐ

今後はJAとも話し合いながら、栽培の様子を動画撮影や独自のノートに書き留めていくことも検討中。それは、これから現れるであろう若い世代の新規就農者のために、「何か渡せるものを形にして残したい」という思いから。玉木さん自身が就農当初に苦労した経験は

もちろん、昔の人がよく言われる「感覚で覚える」とことは難しく長い時間がかかるため、それが農業に対するハードルを上げてしまう



「ミニトマトは比較的作りやすいので新規就農におすすです」と語る玉木さん。

可能性もあります。そうではなく、「この土地の環境や気候にあった栽培方法を一人で多くの人にわかりやすく伝え、みんながこの地域の農業を盛り上げていけるよう、自分が橋渡し役を担っていきたい」と語る玉木さん。次世代に何を伝えていけるか。目の前の作業に追われながらも、日々様々な活動に奮闘中で

ミニトマト 一口メモ

玉木さんのミニトマトをはじめ、斐川町内で安心・安全にこだわった栽培方法で育てられた野菜や果物は「ひかわの恵み」としてブランド化され、県内のスーパーで販売されたり、出雲市内の学校給食にも使用されています。また、規格外のミニトマトはトマトジュースに加工され、素材の旨味を感じる喉越しスッキリな味わいを楽しめます。冬場に収穫されるミニトマトは、水分が少ないために甘さがギュッと濃縮され、子どもから大人まで皆が虜になる美味しさです。ぜひ「ひかわの恵み」をお試しください。





「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」

JA自己改革の取り組み

信用・共済事業の機構改革を実施します

事業改革の取り組みの一環として、信用・共済事業の機構改革を令和2年3月1日付けで実施します。信用・共済事業を取り巻く環境が大変厳しい中、JAしまねは統合メリットの発揮に向けて組織を再編し、事業のスリム化・効率化を進めてまいります。

【令和2年3月1日付け機構改革の概要】

- 信用・共済事業における本店と地区本部の重複業務を移管・機能集約して、本店と支店を直結する組織体制とします。
- これにともない、地区本部の金融共済部を廃止します。
- 各地区本部に支店を統括する統括支店を設置し、これまで信用・共済事業で地区本部が担っていた機能に対応します。

この度の機構改革は、重複業務・機能の集約による効率的な組織体制を構築するものです。今後も信用・共済事業のあり方や見直しを検討してまいります。

また、大きな課題である営農経済事業改革についても、引き続き検討を進めてまいります。

JAしまねの総合力を結集し、環境変化にスピード感ある対応を行い、多様化する組合員ニーズに対してより一層のサービス向上に努めてまいります。



©ひとのわぐま



©よりぞう

担い手訪問活動を継続的に実施します

JAしまねでは自己改革の一環として、JA役職員が各地域の担い手を訪問し、直接お話を伺う活動に取り組んでまいりました。

訪問活動では、JAの自己改革等の取り組み状況などをお伝えするとともに、直接ご意見やご要望を伺います。

JAしまねでは、担い手をはじめとした組合員との対話を重ね、また集会等も活用しながら、いただいたご意見をこれからの各種事業や運営に活かしてまいりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。



斐川地区本部 グリーンセンター



産直へようこそ!!

可成り産地が地域の特産品は、島根県内の産直産地を積極的に紹介しています。



花と地元産野菜が魅力のグリーンセンターは、JAが運営する斐川町内唯一の産直として、同町内はもちらん松江市や雲南市などからも買い物が訪れる人気の直売所だ。

その特徴は何といっても店内に並ぶ色とりどりの花。別名「花と野菜の産直市場」と呼ばれる同産直店舗に足を踏み入れると、季節の鉢植えや胡蝶蘭などが来店者を迎える。家庭用のリーズナブルな鉢植えはもちろん、胡蝶蘭も開店祝いや新築祝い用に強いニーズがあるという。店内には切花コーナーもあり、スタッフがプレゼント用のラッピングなども行う。こうした花卉は、地元生産



鉢植えや切花を素敵にラッピング! スタッフ手作りのメッセージカードを添えるとさらにgood!



広く設置された産直野菜コーナーは朝から質・量ともに充実している

者から出荷されたもののほか市場からも仕入れることで、季節を問わず品数が充実するよう心掛けている。

250人からなる野菜等出荷者協議会の生産者から毎日出荷される新鮮な野菜や果物も、広い売り場に所せましと陳列され、取材当日もオープンから大勢の買い物客で賑わっていた。斐川町の特産を使用した加工品もおすすめで、人気のハトムギチョコやトマトケチャップなどの専用コーナーが設けられている。

平成7年に農家の主婦らが中心となってテントからスタートした同産直も、今では店舗での販売のほか、病院や福祉施設、保育園などへの野菜配達も請け負うなど、地域になくはない店となった。これからも地域密着をモットーに、地域の人々の生活を彩る産直であり続ける。



斐川の人気加工品もグリーンセンターで購入できる



店名：グリーンセンター
 所在地：島根県出雲市斐川町美南1329
 TEL：0853-73-9070
 営業時間：9:00~18:30
 定休日：12/31~1/4、8/15

JA
自己改革
実践中

JAグループ島根

JAしまね農業振興支援事業 活用事例のご紹介



JAしまねでは、経営拡大に向けた基盤整備や機械等の更新対策、県域でのモデル事業を実施するために、「JAしまね農業振興支援事業」に取り組んでいます。

森川勇人さんは、東京から平成28年にUターンし、他のぶどう農家での研修を経た後、平成30年3月に新規就農され、大粒系ぶどう28aと野菜26aを栽培されています。

平成30年にはぶどうハウスを8棟整備され、今年度は行政の補助事業とJAしまね農業振興支援事業で整備したぶどうリースハウスを活用されています。

現在、キャベツやあすっこ等を栽培しながら、果樹剪定作業や防風ネットの設置、ハウスまわりの整備など、来シーズンからの大粒系ぶどうの出荷開始に備えています。

森川さんは「JAに支援してもらい、初期投資が軽減でき感謝しています。将来的にはシャインマスカット・ピオーネに加え、新たに神紅の栽培を行い、大粒系ぶどうをメインに経営したいと考えています」と笑顔で話してくださいました。

浜田市 ^{もりかわ} 森川 ^{はやと} 勇人さん



JA YOUTH

一所懸命 青年連盟

JAしまね斐川青年連盟

JAしまね斐川青年連盟（盟友数83名）は、農家盟友とJA職員盟友で構成された組織です。各種イベントへの出店や学習活動などを通じて、盟友同士の交流を図るとともに、今後の農業や地域貢献について考える場となっています。

斐川青年連盟の主な活動は、「保育園での花苗植え」、「農業絵画・ポスターコンクールの実施」、「手作り看板製作」、「JAまつりへの出店」などです。

保育園での花苗植えは、『園児の土と植物へのふれあい』を目的として、年2回、JA女性部と合同で実施しています。同盟友が育てた苗を園児と一緒に定植し、その後の管理は園児たちが行います。そして、きれいに咲いた花は卒園式や入園式で飾ってもらいます。

3月には、「農業絵画・ポスターコンクール」の青年連盟賞受賞作品を原画として、「手作り看板」の製作をしています。これは米消費拡大のPRを目的として始まった活動で、今年で16年目になります。完成した看板は多くの方に見てもらえるように、毎年グリーンセンター入口に設置しています。

このほか、地域の皆さんとの交流を目的として、JAまつりで杵つき餅の実演販売を行っています。また、盟友の知識向上を目的とした先進地視察研修や野菜の栽培・出荷なども行っています。

今後も各種活動を通じて盟友同士の交流を図るとともに、農業の活性化と地域貢献を目指して、日々取り組んでいきます。



保育園での花苗植え



手作り看板製作



杵つき餅の実演

雲南

良質酒米目指して振興大会 知事もエール

雲南地区本部管内の酒米生産者らが組織する、雲南稲作推進協議会酒米生産部会は1月18日、松江市のホテル玉泉で第11回雲南酒米生産者振興大会を開き、生産者や行政、JA関係者ら約100人が参加しました。

大会は生産者らが一致団結し、県内随一の生産面積を誇る酒米産地として需要に応じた安定生産とさらに良質な酒米を目指して毎年開催しています。

大会では島根県農業技術センター栽培研究部の田中互副科長による「酒米の高品質生産に向けた対策」や、丸山達也県知事による「魅力ある農業の実現に向けた取組の方向性」の講演が行われました。

石原吉徳部会長は「天候に左右されない需給バランスのとれた良質米の生産が求められている。皆さんと共に頑張りたい」と意気込みを語りました。



開会の挨拶を述べる石原会長

くにびき

農業法人会認定新規就農者と 意見交換会実施

くにびき農業法人会（岸本定朝会長）は12月20日、松江市の松江ニューアーバンホテルで認定新規就農者との意見交換会を開催し、50名が参加しました。

意見交換会は、同法人会会員と新規就農者との意見交換を通じた交流により、農業経営の安定や後継者の育成に繋げようと企画。

当日、岸本会長が「地域農業を守り、発展させるためにも経営者や新規就農者が一丸となる必要がある。活発な意見交換をしてほしい」と挨拶しました。その後、5班に分かれ「農業経営の安定」をテーマに意見交換を開始。それぞれの立場で現状の課題をメモに書き出し、その課題の解決策について意見を交わしました。

また、同法人会を代表して、マルカミ農縁株式会社の上山根有史さんによる体験発表も行われ、参加者は農業に対する熱い思いやアドバイスに耳を傾けました。

今年5月に就農した神門侑花さんは「個人経営で法人の方と繋がる機会が少ないため、今回のような機会はありがたい。疑問に思っていたことについて聞くことができよかった」と話しました。



解決策を話し合う参加者

隠岐

JA女子大学隠岐キャンパスで 冠婚葬祭マナーを学ぶ

JAしまね隠岐地区本部は、隠岐の島町の隠岐島文化会館でJA女子大学マナー講座を開催しました。同女子大学は一昨年春に第1期JA女子大学を開校しており、今回で10回目の講座。マナー講座は、生徒からの開催要望が強かった冠婚葬祭マナーをテーマに、ユミプロデュース代表の池上由美講師を迎え、普段接することの多い冠婚葬祭礼儀作法を学びました。生徒は熱心に聞き入り、マナーには地域性があり常識だと思っていたことが常識ではなかったことなどを知ると、驚きの表情を見せていました。池上講師の「マナーとは相手の方を思いやりの心をもって接することがマナーである」との言葉が印象深く残っています。

第1期生で開催する講座は今回で最後となり、来月2月には卒業式を行う予定です。



やすぎ

やすぎエコ白ネギ出荷本格化

安来市では共選エコ白ネギの出荷が本格化しています。昨年11月下旬にやすぎ白ネギ生産部会が出荷を開始し、松江市の卸市場である松江合同青果(株)を経由後、(株)みしまやへ全量出荷しています。品質は良好で、今年度は15トンを目標に4月上旬まで出荷する予定です。

同部会は21名の生産者で構成され、うち18名が島根県の推奨する「エコロジー農産物」の認証を受けています。この認証を受けた白ネギは「エコ白ネギ」として、慣行栽培と差別化して販売されています。慣行栽培に比べて化学肥料を同県基準の半分としており、環境にやさしい栽培が特長です。

「エコ白ネギ」は安来管内のJA直売所にも並んでおり、一般消費者からの人気も高いです。JA担当者の足立美由紀職員は「安来のエコ白ネギは強い甘みが特徴です。ぜひ食べてほしいです。」と話しました。



斐川

大型特殊免許取得へ

斐川地区本部農機課は1月22日、同地区本部営農総合センターで大型特殊免許（農耕車限定）取得に向けた講習会を開きました。管内の営農組織や担い手農家などから8名が参加し、基本操作や試験のポイントなどを学びました。免許を持つJA職員を講師役に、操作方法や交通ルールなどの座学講座約90分と、駐車場の一角を試験場のコースに見立ててキャビン付きトラクターを運転し、走行確認や方向変換などを練習しました。近年、営農組織や大型農家の規模拡大に伴い、農耕車で公道を走行するケースが増えてきており、免許取得で安全使用を促すために同課では毎年講習会を開いています。担当職員は「多くの免許取得者を確保することで大型機械の安全使用と農作業の効率化を図り、斐川の農業の発展に繋がってほしい」と話しました。



隠岐 どうぜん

「第2期JA女子講座」の開講

12月14日、昨年に続き第2期となるJA女子講座を開講しました。

今年度受講を募ったところ、昨年を上回る21名の応募をいただきました。

第一回目となる女子講座は「ミニ門松で新年を迎えよう！」と題し1人一組ずつの門松作りに挑戦しました。あらかじめ準備した土台に当たる太い竹と、それに立てる先端が斜めにカットされた3本の竹を選び、長さなどを好みに調整して基本形を作り、これに大小の松、紅色鮮やかな千両・南天などで盛りつけし、水引（梅結び）や扇などの手作りアクセサリを飾り付けました。大きな笑い声と真剣なまなざしの2時間で、素晴らしい「ミニ門松」が出来上がりました。



石見銀山

女性部が学校給食に里芋を出荷

JAしまね石見銀山女性部が、里芋を学校給食に出荷しました。

同女性部の学校給食への出荷は平成27年より始まっており、かぼちゃやふきなどを学校給食に出荷しています。

12月5日には、里芋を持ち寄り、部員18名が大田市学校給食センターの指導を受けながら、皮をむいていき、合計で77.5kgを出荷しました。

この日集められた里芋は「里芋のスープ」として12月6日の大田市内の幼稚園、小学校、中学校の給食に登場しました。

森脇岸江女性部長は「地元の農産物を子供たちに味わって食べてもらいたい」と語りました。



出荷する里芋の皮をむく女性部員

出雲

出雲市アグリビジネススクール 4講座で28人がスタート

出雲市農業再生協議会は1月8日、出雲市役所くにびき大ホールで「出雲市アグリビジネススクール」の令和元年修了式・令和2年開講式を開きました。同会の藤河正英会長（出雲市副市長）は冒頭のあいさつで「身につけた技術を、出雲市の農業発展にご活用いただきたい」と呼びかけました。

スクールは地域農業の担い手の育成・確保を目的に平成18年に始まりました。特産のブドウ、イチジク、柿の3部門のチャレンジ講座と、女性・シニア向けの産直野菜講座を実施し、1年間を通して座学や栽培研修を行います。

令和元年は29人が修了。令和2年は28人が受講します。産直野菜講座を修了した藤原光雄さんは「人が食べるものなので安全面は特に気をつけている。肥料・農薬の適正使用などを詳しく学ぶことができてよかった」と成果を話しました。



あいさつをする藤河会長

西いわみ

令和元年度石西地域リーダー研修会 が開催されました

島根県石西地域の農業・農村の振興を図るため関係機関で組織する「石西地域農林振興協議会」は1月22日、JA各生産部会組合長等のリーダーの資質向上と関係機関との一層の連携を図ろうと益田市元町の益田市立市民学習センターで令和元年度石西地域リーダー研修会を開催しました。

講師に招かれたJAしまね山根盛治副組合長が、参加者55名を前に「リーダーに求めるもの」と題した講演を行いました。

山根副組合長は「リーダーとは、組織やチームの使命を達成するために必要なことをやる人、リーダーシップとは、他者を巻き込んで現状を変え成果を出すこと」と述べ、「リーダーがすべきことは、目標を掲げチームを鼓舞すること。先陣を走ること。決断をすること。コミュニケーションを取ること。の4つで、大切なのは誰もがリーダーシップを持つことだ」と訴えました。

研修会ではこのほかJA西いわみぶどう部会の取り組みなどが報告されました。



島根 おおち

とんど祭りで五穀豊穡を祈願

島根おおち地区本部では、昨年販売した正月用しめ縄・しめ飾りを回収し、管内のとんど祭りにおいて五穀豊穡を祈願しました。

このしめ縄は管内の生産者が手作りしたもので、広島市場や広島市内のスーパー「スパーク」に出荷し、今年は約3,000個のしめ縄・しめ飾りを販売しました。広島市内ではとんど焼きを行っている場所が限られるため、正月明けにはスパークの各店舗に回収箱を設置し回収を行っています。回収したしめ縄は、瑞穂支店管内で職員も参加する地元青年会が作るやぐらに積み上げられ、点火されるとパァンツと大きな音とともに巨大な炎が舞い上がり、参加した地元住民と今年一年の無病息災・五穀豊穡を祈願しました。



本店

JAグループ島根 「緑の募金」贈呈

JAグループ島根は1月23日、(公社)島根県緑化推進委員会の「緑の募金」に、役職員などから寄せられた募金72万7,919円を贈りました。松江市の林業会館で行われた贈呈式ではJA島根中央会の石川寿樹会長が同委員会の松尾秀孝代表理事会長へ目録を手渡しました。JAグループ島根では2011年度から同募金に取り組み、今回で9回目。総額は631万8,217円となりました。

石川会長は「県内の森林整備、環境緑化、東日本大震災や熊本地震の被災地の森林復興などに役立ててほしい」と期待し、同委員会の松尾会長からは「毎年取り組んでいただき感謝する。有効に活用していきたい」と感謝の言葉をいただきました。

同募金は県内各地小中学校での「緑の少年団」活動、森林整備や地域環境の緑化、東日本大震災や熊本地震の被災地の森林復興などに活用されます。



松尾代表理事会長(左)へ目録を手渡す
JA島根中央会の石川会長

いわみ 中央

「いわみのかあちゃん漬け」 本漬け作業始まる

いわみ中央女性部弥栄(徳田マスエ部長)は、1月16日に昔ながらのたくあん漬け『いわみのかあちゃん漬け』の漬け込み作業を行いました。女性部の活性化を目指し、2010年からたくあんの販売に取り組んでいます。

昨年9月に種を蒔き追肥や間引きを行い、11月に収穫した大根を寒風にさらした後、塩漬けにして今回の本漬け作業を迎えました。

この日は10樽(1樽30kg)を漬け込みました。約3か月置いたのち4月から販売予定です。

徳田マスエ部長は「部員の皆さんが20kgの重石を運び、腰が痛いと言いつつも早く作業をしていただけるので、今まで続けて来ることができました。長年改良を重ねてきたたくあん漬けの味を、今年も多くの方へお届けしていきたい」と語りました。





第41回みどりをまもる小学生作文コンクール受賞者決まる

J Aしまね女性部（部長高橋美佐子）は「第41回みどりをまもる小学生作文コンクール」を催しました。

自然、環境、農業、食料、地域行事等に関心を抱くことを狙いとして昭和54年から始めたものです。

県内小学校から135点の応募があり、58点の入選作品及び各賞を決定しました。

金賞 わたしのたんぼたいけん

益田市立高津小学校 1年 伊藤 さひめ

わたしは、はじめてたうえをしました。うえかたのコツはなえを3〜4本とって、スポッ、また3〜4本とって、スポッ、とうえることです。J Aのおじさんにおしえてもらいました。どろの中にいねのねっこだけを、ゆっくり、やさしくいれました。なえは、ぐにゃつとなるのでたいふうのときだいじょうぶかな？ どんどん大きくなってほしいな！とおもいました。

たんぼの中には、なにもいないかとおもいました。でも、わたしは、かえるをふんつけてしまいました。「もついでよ。」

といて、ちょっとだけなきました。かえるは、ぬるつとしていました。わたしは、かえるのことがいまでも、わすれられません。

たんぼには、もうはいらたくないとおもいました。でも、やっぱり、またいつてみたくなりました。なぜならたんぼのどろがきもちよかったです。

たんぼの中でソリレレーをしたのがいちばんたのしかったです。あたたかくて、こけてもべちゃつとなつて、いたくありませんでした。きもちのよいどろんで、いいにおいでした。そのままおよぎたいべらひでした。

あきにいねかりにいのが、たのしみです。おいしういほんをたくさんたべたいです。



西いわみ地区本部からは、管内小学校5校から9点の応募があり、金賞に益田市立高津小学校1年伊藤さひめさんの「わたしのたんぼたいけん」、銀賞に益田市立東仙道小学校3年寺戸清也さんの「ひろせの川にいて」、銅賞に吉賀町立六日市小学校5年佐々木順脩さんの「米作りは大変だなあ」、佳作に吉賀町立六日市小学校2年生萬行栞恋さんの「もったいない、もったいない」が選ばれました。

佳作 「もったいない、もったいない」

吉賀町立六日市小学校 2年 萬行 栞恋

うちのひいおばあちゃんは、お茶わんにごはんつぶがついてたら、「そんなもったいないことをしたら、目がつぶれてしまつよ。」

とよく言います。でもひいおばあちゃんが理由をしている時いつも野さいのへたやかわはすてられています。とつみょうなんてまだたねがついているし、だいこんやにんじんなんてみがついているのにかわいそうだなと思います。けどひいおばあちゃんはすててしまいます。どうしてすててしまつのか聞いてみると、「こは食べれんのよ。」

と言いました。同じみなのにすてるしか方ほうがないのかなとふしぎに思って夏休みに野さいのへたについてしらべてみることにしました。今回のかんさつで一番そだったのはとつみょうでした。一つ目はへたをもう一ど土にうえて、二つ目はへたを水の中に入れて10日間かんさつしてみました。水の中に入れて方は10日間で38・7cmものびはじめにかつたときより大きくなりました。土にうえたやさいは水の中でそだてるより大きくなるスピードはおそかつたけどみどりのこゆいやわらかなとつみょうができました。

ひいおばあちゃんはわたしがすききらいをしたり、たべものをのこしたりすると、「むかしはたべるものにもこまつてたいへんだつたんだよ。」

とよく言います。やさいのかんさつをするまでわたしはたくさんあるのにももったいないばかりいっていやだなと思っていました。だけど、わたしの生活している中でもやさしいだけではなくまたつかえるものでもむだにしているものはたくさんあるかもしれせん。ひいおばあちゃんがおしえてくれたもったいないをこれからもたいせつにしていきたいです。





まちむらネットワーク

銀賞

ひろせの川について

益田市立東仙道小学校 3年 寺戸清也

ぼくは、ひろせの川で魚をとりにいったことを書くことと思いましたが、このことを書くこと思ったわけは、ひろせの川がすきとおって見えたし、小魚がたくさん見えたので、これを書くこと思ったからです。

ぼくたちがいった川は、やす来市ひろせ町にながれているいいな川です。周辺には月山とだ城のふもとがあって、みか月公園があります。川の中には、メダカぐらいの小さな魚や石にはりついている魚がいました。

ぼくは、はるあきくんとしゅうえいくんであみをつかって魚をとることにしました。ぼくは、あみでとるのをあまりやったことがないのでとてもむずかしかったです。3分ぐらいしてはじめてしゅうえいくんがとりました。しゅうえいくんがとった魚は2センチメートルぐらいで白色でした。つぎははるあきくんが魚をとりました。大きさは、3センチメートルぐらいで茶色でした。そして5分ぐらいしてやっと3センチメートルぐらいのと2センチメートルぐらいのがとれました。色は2ひきとも茶色でした。あみで2ひきとるのはとてもむずかしいけど2ひきとれたのでとてもうれしかったです。

でも、大きい魚はにげられて、あみではとれませんでした。だから水泳ぼうしとあみでとろうと思いましたが、でもとれなかったのでもう少しかったです。らい年いいなし川にいったときは大きい魚をとりたいです。

ぼくたちが、川にいったときは、ほとんどゴミや物のかすがありませんでした。これからも、きれいな川と森であってほしいなと思います。そして、自分も川にゴミをすてないように気をつけたいしまわりの人がゴミを川や森にすてているのを見たときはゴミをすてないように教えたいです。



銅賞

米作りは大変だなあ

吉賀町立六日市小学校 5年 佐々木 順 脩

ぼくたちの学校では、毎年5年生になるとバケツでいねを育てます。お兄ちゃんも5年生の時にしていたので、なんとなく分かっていました。

まず、種もみに芽を出すことからはじめました。種もみをシャーレに入れて、種もみがつかないぐらいの水を入れます。数日で芽が出ると言われていましたが、ぼくの種もみは、くる日もくる日も芽が生まれませんでした。芽がなかなか出てこないで、水がなくならないように全体にはったり、観察もこまめにしたりしました。結局何日かして、少しだけ芽が出ました。ぼくの米作りは、はじめからうまくいかなかったので、あせりました。次にJAの方が学校に来られ、土作りを教えてもらいました。かわいた土に水とひりょうを入れて、手でまぜました。土が重くまぜるのがとても大変でした。手もどろだらけになり、つめの間に入りあらつてもなかなかおちませんでした。JAの人に、よさそうに発芽した種もみを選んでもらい植えました。

数週間後、JAの方にいいなえを見てもらい間引きをしました。ぼくのなえは、あまりよくなかったので、友達の間引いたなえをもらいました。大きくなってりっぱななえでした。種もみもなえも、植えるときすくすく育てていくものだと思っていましたが、芽が出なかったり育ちが悪かったりすることを知り米作りの大変さが身にしみてわかりました。夏休みに入るので、家にバケツいねを持って帰るようになりました。数日間中ぼしをしました。ばあちゃんが遊びに来た時、ぼくのいねを見て、「中ぼしは、しっかりと土にヒビが入るほどした方がいいよ。土の中に酸素が入って根もと、教えてくれました。」

中ぼしができたら今度は水がなくならないようにしないといけません。ぼくは、毎日ラジオ体そうから帰った時に水をあげ、夕方水が少なくなっていたら水をあげています。朝いっぱいあげた水が、夕方になくなることもよくありました。旅行に行く時は、水がなくならないか不安で、たっぷりの水を入れ、台風が来る時は、風があたりにくいところにひなんさせました。

今、バケツいっぱいいねが育っています。まだお米はできていません。本当にちゃんとお米がなるのか心配です。

はじめは、米作りなんかかんたんに来れると思っていただけ、一つ一つの作業がとても大変で不安でした。いつも何げなく食べている一つぶのお米がこんなに苦労して作られていたことを知りました。これからは、今まで以上にお米一つぶ残さず大切に感しゃして食べていきたいと思えます。

ぼくの育てたお米を食べる日がとても楽しみです。





令和2年西部家畜市場初セリ開催

令和2年の島根家畜市場の初セリが1月14日に益田市遠田町の西部家畜市場で開かれ、浜田市や益田市をはじめ、津和野町、吉賀町から雌牛47頭、去勢牛87頭の合計134頭が上場され、令和の初セリに相応しい活発な取引となりました。

当日取引では、雌牛平均価格が574,176円（税込）、最高価格が797,500円（同）、去勢牛平均価格が746,533円（同）、最高価格が922,900円（同）となりました。

あいさつに立ったJAしまね本店畜産部小影浩雄部長は「令和元年12月までの県全体の上場頭数は3,719頭で前年比98.2%であったものの、販売価格は前



年を2%上回る価格であった」と述べました。
JAしまね西いわみ地区本部田村清己部長の3本締めが発声でセリを開始したほか、豚肉の代わりに牛肉を使った「牛汁」約200食分が無料で振る舞われました。

シャインマスカット栽培勉強会開催



学び令和2年産シャインの高品質化を目指すそうと部会員26名が参加しました。

講師に島根県農業技術センター技術普及部や栽培研究部、資源環境研究部から5名の普及員らを招き、令和元年産で試した栽培管理方法や他県での栽培事例、施設内温度の調節技術や養液土耕栽培、被覆資材活用事例などを教わりました。

近年の気温の推移を参考にした令和2年産害虫対策では、越冬できない虫が生き残る可能性や休眠に入らない虫の発生が懸念されるとして、適時適切な薬剤を使用した防除の徹底を確認しました。

益田メロン部会通常総会開催

JAしまね益田メロン部会（部会長大場尚俊）は1月15日、益田市駅前町のJAしまね西いわみ地区本部で令和元年の通常総会を開きました。

令和元年産メロンの出荷実績は全体で数量約622トン（前年比100.4%）、販売金額3億1,676万円（同100.1%）で、販売金額は5年連続で3億円越えを達成したことが報告されました。

総会では令和2年産に向けた全体の販売金額目標を3億円に掲げ、栽培面積の維持・拡大を図るほか、島根県下を先導する責任ある産地として安全安心で高品質なメロン作りに取り組むことを確認しました。

大場尚俊部会長は「5年先を見据えた産地ビジョンの意義を共有することができた。部会員全員一丸となつて前に進みました」とあいさつしました。





農福連携授業を行いました

益田市横田町の県立益田養護学校高等部生徒は12月10日、ブドウの施設栽培を手掛ける農家で農作業を体験する校外学習を行いました。

市内の農家に出向き、栽培管理や収穫作業などを通して、作業の自信をつけて学習への意欲を高めること、人と関わりを持つ経験を積み社会性を身に付けることが目的で、今回が6回目の校外学習となります。

当日は、同校高等部園芸班の1年生と3年生4名が、同市喜阿弥町の国営西部農地開発地にあるJAしまね西いわみぶどう部会岩本和雄部会長のビニールハウスでセラウエアのハウスの剪定枝の整理の手伝いをしました。

作業を指導した岩本部会長は「剪定した枝の整理の手伝いは大変助かった」と喜びました。

引率の先生は「生徒らが農家の役に立つ事ができたらしい。生徒らはこの経験を将来につなげてほしい」と願いを話しました。



西いわみ集落営農・法人ネットワーク 水稲資材研修会開催

西いわみ集落

営農・法人ネット

ワーク（会長

糸賀盛人）は12

月25日、令和2

年度以降の肥料

農薬や資材購入

時の参考にしよ

うと水稲資材研

修会を開きまし

た。

研修会には同

ネットワーク所

属の水稲栽培を手掛ける組織や法人の代表や

JA、メーカー関係者ら65人が出席しました。

JAしまね生産資材部は農匠自動水門につ

いて、JA全農島根推進課は地理情報システ

ムを利用した営農情報管理システムを紹介し

たほか、肥料や土壌改良剤、農薬の開発製造、

販売を取り扱うメーカー各社の担当者が自社

商品の特性や使用方法などについて説明しま

した。

糸賀盛人会長は「水稲栽培は現在では機械

や肥料、農薬などの進歩で効率化が進んでい

る。本日の研修会でしっかりと勉強してほしい」とあいさつしました。



西いわみ農業青色申告会 通常総会開催

西いわみ農業青色申告会（会長斉藤久人）は1月21日、益田市中吉田町のJA中吉田出張所で第25回となる通常総会を開きました。

総会では、平成30年度に益田税務署管内青色申告会連合会へ加盟し、会全体のレベルアップを図ったことや令和元年9月に同年10月導入の「軽減税率制度」について研修会を開いたことを報告しました。

斉藤会長はあいさつで「申告会連合会に加入して1年が経つ。情報誌を目にして勉強の機会も増えた」として「収入保険や軽減税率について学んでいきたい」と述べました。

総会開会前には、益田税務署個人課税部門統括国税調査官山根信司氏を講師に、消費税仕入れ税額控除要件の変更や令和元年分農業所得用青色申告決算書の書き方などの注意点について研修会を行いました。





冬至の日に合わせユズをプレゼント

冬至の日の12月22日、益田市内田町の萩・石見空港で、ユズ生産者らが特産のユズを使った商品を搭乗客らにプレゼントしました。

当日は、河上信男益田副市長や澄川副組合長のほか地元小学校児童やユズキャラクターらが、搭乗客124名を同空港発着ロビーで出迎え、柚子湯用に用意した黄玉ユズ2玉とユズ果汁を使った菓子、紹介パンフレット等を入れた詰合せ袋を手渡しました。

イベントに先立ち、同組合澄川晋二副組合長は「私達が一年間丹精込めて育てたユズを皆様方に用意した。このユズで香りを楽しんでほしい」とあいさつしました。

島根県内最大のユズ産地である益田市美都町の美都町柚子生産者組合（齋藤正明組合長）



が、地元特産品のPRと空港利用促進を目的に毎年冬至の日に開催しています。

冬の風物詩スイセンの花をプレゼント



冬を代表する花で益田市の市花でもあるスイセンを広くPRしようと12月27日、地域団体やJA生産部会、小学校児童が同市内田町にある萩・石見空港で乗

降客らにスイセンをプレゼントしました。

スイセンのプレゼントは、鎌手ふるさとおこし推進協議会（川崎友弘会長）やJA鎌手水仙部会（部会長両見勝）、関係機関が1993年の空港開港時から毎年続けているものです。

当日は約500本を3本入りの花束にして乗降客139名に届けました。

水仙部会が手掛けるスイセンは日本スイセンと呼ばれるもので、11月下旬ごろから翌年2月にかけて県東部や広島市の花き市場に出荷します。

両見勝部会長は「お客様の喜ぶ顔を見ることができてうれしい」と喜びました。

スイセンの花を満喫ウォーキング大会開催

益田市鎌手地区の自治会や生産部会、商工会などで作る実行委員会がスイセンの花や香りを楽しんでもらおうと1月19日、第19回ウォーキング大会「水仙の里かまてウォーク」を開き、約600人がウォーキングを楽しみました。

益田市や浜田市、広島県や山口県などから集まった参加者らは同市西平原町の鎌手公民館と同町唐音水仙公園を往復する約4kmのコースを歩き、日本海の景色と沿道や公園に咲き誇るスイセンの花や香りを楽しみました。

発着点の鎌手公民館では、JAしまね鎌手水仙部会や地元婦人会、商工会メンバーらがスイセンの花束や温かい豚汁、抹茶の無料サービスで歓迎しました。

同公園には約3ヘクタールの斜面などに地元住民らが植栽した約200万球以上のスイセンが育っています。





おせち料理教室を開きました

J A 女性部津和野ブロック（ブロック長渡邊佐代子）は12月17日、津和野町後田の津和野町民センターで料理教室を開きました。

講師に益田市の大畑美里管理栄養士を招き、「焼き豚」「野菜キッシュ」「松前漬け」「紅白なます」「野菜南蛮鶏」「みそ汁」の6品を調理しました。

参加した部員らは「今年は我が家でも作ってみよう」と感想を話しました。



津和野ブロックでは今後も季節に応じた料理教室などを通じて部員相互の親睦と交流を深めたいとしています。



西いわみ青年連盟益田支部視察研修

J A しまね西いわみ青年連盟益田支部（委員長宅野和樹）は12月17日18日の2日間、益田市農林改良青年会議（会長増野一志）と合同で県外視察研修を開きました。

農福連携事業を行う社会福祉法人や複合経営を行う会社を視察し、農業との関わりや生産現場の実践を確認して今後の自分の営農経営などに役立てることが狙いです。



山口県萩市の社会福祉法人E・G・Fが運営する「のんきな農場」では、E・G・F事務局長野稻泰二氏から原材料生産から6次産業化に至る経緯を教わったほか工場見学を行いました。

福岡県久留米市で会社組織を立ち上げ、農業のほか飲食業などを経営するエイチアイ株式会社では、代表取締役稲吉久徳氏から視察先の水菜や小松菜の栽培園地で、出荷形態や労働力確保、規模拡大の方策について教わりました。

西いわみ地区本部の自己改革の取り組み

J Aしまね西いわみ地区本部は1月16日より、益田市駅前町の益田中央支店ならびに西益田支店でJ A共済お見積りキャンペーンを始めました。

J A西いわみ地区本部独自企画として、支店来店者や組合員、利用者に向けてJ A共済のP Rと各種共済の内容や手続きなどの相談に応じるブースを支店内に設置しました。

支店担当職員やL A（共済専任渉外担当者）がブースを担当し、各種相談役として活動します。

J A地区本部金融共済部共済課では、J A共済「ひと・いえ・くるま」の総合保障の説明や提案、見積書作成などを通じてコミュニケーションを図り、安心と信頼を届けたいとしています。

J Aではこれからも自己改革実現のため皆様方からいただいたご意見を、できることから確実に実施してまいります。



3月の無料年金相談会～お気軽にご相談を～

年金定期便、年金手帳、印鑑、裁定請求書、年金証書等をご持参いただきますと、より具体的な相談ができます。はじめての方や、現在受けている年金に疑問をお持ちの方もお気軽に相談でき、秘密は固く守られます。どうぞ、お近くの会場にお越しください。

西いわみ地区本部金融共済部金融課
年金相談センター（0856-22-8680）は、
平日（8:45～17:00）いつでも
ご相談いただけます。

3月の年金相談会

12日(木)	益田支店	午後2時～午後6時	J A 年金相談員
--------	------	-----------	-----------

※日程・社会保険労務士は変更になる場合があります。

- 雪だるま 遊んだ仲間 今白髪 (益田市 和崎富久代さん)
- 積もってね 孫がまつてる 雪だるま (益田市 芝田 淳子さん)
- 我が街に 令和の雪は まだ降らず (益田市 喜村 信江さん)
- 雪景色 ひときわめだつ 朱の鳥居 (益田市 高橋しげこさん)
- 可愛いネ 何の足あと 雪のうえ (益田市 澄川久美子さん)
- 待つてるよ 雪いっぱい スキー場 (益田市 重田 伸子さん)
- 怖がるな 雪も季節の 風物詩 (益田市 西坂 蔵人さん)
- 粉雪や 雀の足跡 愛うしい (益田市 小笠原かよみさん)
- 冬らしく 豊作連れて 雪よ来い (益田市 村上登美子さん)
- 雪積り なんてんの木が おじぎする (津和野町 大庭 定さん)
- 山々を 飽かず眺める 雪景色 (津和野町 高谷喜里栄さん)
- 風寒し 山の頂き 雪ありて (津和野町 板蔭 静代さん)
- 雪うさぎ ピョンピョンとんだ くつのあと (津和野町 豊田 往野さん)
- 降り積る 雪に負けるか 孟宗竹 (津和野町 大羽 克巳さん)
- 白い肌 雪と比べて しかめ顔 (津和野町 大羽ミヤ子さん)
- 雪不足 災害多い 温暖化 (吉賀町 三宅多津子さん)

川柳「雪」の投稿数 津和野町8通、吉賀町1通、益田市21通

お題「雪」

4月のお題は「桜」です
ご応募お待ちしております



にしいわみひろば

川柳 応募方法

●葉書に 川柳、住所、氏名、電話番号をご記入ください。●締切 令和2年3月10日（当日消印有効）
●あて先 〒698-0024 益田市駅前町15-1 JAしまね 西いわみ地区本部 企画総務部 ふれあい課



西いわみ地区本部からのおしらせ

JAしまね西いわみ農機拠点センター

春の農機フェア開催

令和2年
とき **3.6** **金** ・ **7** **土**

午前9:00より

ところ **農機拠点センター**

益田市向横田町 お問い合わせ先 0856-31-5255

みなさまのお越しを
お待ちしております。

益田グリーンセンター

春の感謝祭セール

3月13日 **金** ・ **14日** **土** 開催

時間 9:00~17:00

9:00~16:00

JAしまね益田グリーンセンター

益田市中吉田町1001-1 お問い合わせ先 0856-23-0908

みなさまの
ご来場を
お待ちしております。

管内米穀生産者の皆様へ お知らせ

令和2年産米穀出荷予約申込み受付を始めます

JAしまね西いわみ地区本部営農経済部米穀課では、
令和2年産米穀出荷の予約申込み受付を始めます。

JAに今まで出荷をされたことの無い方でも出荷の予約申込みができます。

出荷予約がある場合と無い場合で出荷時のお米の単価に差が生じます。

この機会にぜひJA出荷のご検討をお願い申し上げます。



申込期限: **令和2年3月25日(水)**

申込受付先: JA営農センターまたは最寄りのJA各支店、経済センターまで

お問い合わせ先: JAしまね西いわみ地区本部 営農経済部米穀課 TEL:0856-23-1911 FAX:0856-24-0453

©申込書にご記入いただいた個人情報等は、米の出荷、販売、対策事業等の利用目的以外には使用致しません。

まかせて安心! お米はJAへ!!

水 稻

1 年産島根米の追加金単価について

(単位：円(税込)/60kg)

品 種 ・ 銘 柄	1～3等
コシヒカリ	400
きぬむすめ	400
つや姫(特別栽培米)	400
ハナエチゼン	600
もち米(契約もち、その他もちも同額)	700

令和1年12月20日開催のJAしまね理事会において、左記のとおり買入金の追加金単価が決定しました。

※コシヒカリ、きぬむすめ、つや姫の上区分も同額。
※うるち米はJAしまね米を基準とし、一般米は一律200円/60kg。

○追加金振込日 令和1年12月25日(水)

平成30年産島根米の精算結果について

JAしまねでは、生産者の皆様から出荷いただいた「30年産島根米」を以下の考え方によって、買取手法を取り入れた会計管理を行っています。

- 1.集荷数量が確定する6月末までに販売した残数をJAが時価相当額で買い取る。
- 2.出荷時の「仮単価」と、12月の「追加金」の2段階によるお支払いに加え、上記1をもって精算を約1年に短縮する。
- 3.販売代金・経費の情報開示による透明性の確保と端額を除き全額精算する。

つきましては、6月末までの販売分について会計管理(共同計算方式)を行った結果、精算可能財源が確保されましたので、以下のとおり最終精算金をお支払いするとともに、精算概要についてご案内申し上げます。

■平成30年産島根米精算概要報告書 (西いわみ地区本部)

(税込)

収入・支出項目		単 位	本 店	地区本部	合 計
販 売 数 量		トン	1,726.8	641.1	2,367.9
収入	販売代金	円/60kg	14,415	14,584	14,461
	その他	//	111	157	123
合 計 A		//	14,526	14,741	14,584
費 目	仮単価・追加支払金	//	12,978	13,267	13,056
	流通・保管等に係わる経費	//	619	754	656
	事故処理経費	//	0	0	0
	手数料	//	23	0	17
	生産・集荷・販売等に係る経費	//	119	79	108
	需給調整経費	//	26	24	25
	監査委員会費用	//	2	0	1
	その他	//	71	56	67
合 計 B		//	13,838	14,180	13,931
収入-支出 C=A-B		//	688	561	654
地区本部への精算 D		//	487	312	440
共計事業預り金残高 E=C-D		//	200	249	213
翌年産共計繰越 F		//	0	0	0
本精算 G=E-F		//	200	249	213

※四捨五入のため、内訳と合計が合わない場合があります。

○最終精算金振込日 令和1年12月30日



西いわみ地区本部からのおしらせ

1月西部子牛市場成績 (税込み)

(単位：円・kg)

市町村	性別	頭数	最高	最低	平均	平均体重
益田市 (益田)	雌	39	797,500	368,500	586,892	269
	去勢	59	922,900	457,600	754,171	298
	計	98			687,601	286
益田市 (美都)	雌	1	402,600		402,600	249
	去勢	1	772,200		772,200	283
	計	2			587,400	266
益田市 (匹見)	雌	1	507,100		507,100	269
	去勢	3	789,800	749,100	775,500	285
	計	4			708,400	281
津和野町 (津和野)	雌	1	458,700		458,700	256
	去勢	5	810,700	623,700	747,340	317
	計	6			699,233	307
津和野町 (日原)	雌	4	777,700	437,800	596,933	265
	去勢	6	786,500	610,500	726,733	283
	計	10			683,467	277
吉賀町 (柿木)	雌	0				
	去勢	4	781,000	597,300	729,575	296
	計	4			729,575	296
吉賀町 (六日市)	雌	0				
	去勢	2	796,400	667,700	732,050	296
	計	2			732,050	296
西部市場 総合計	雌	45	797,500	368,500	574,176	267
	去勢	87	922,900	457,600	746,533	295
	計	132			687,775	285

1月の子牛市場

畜産

1月14日(火)に雌45頭、去勢87頭、計132頭の上場により、令和2年最初となる1月の西部家畜市場が開設されました。当日は早朝より小雨が降りあいにくの天気であったものの出荷牛の搬入等、事故もなく無事開催されました。今回は上場牛の日齢、発育等、個体差がありバラつきは大きかったこと、全国的な相場が緩やかに下落していることなどから、平均価格が雌574千円(前回は95%)、去勢747千円(前回は96%)、計688千円(前回は98%)と、やや下落しました。次回の市場開設日は令和2年3月17日(火)、セリ開始時間は9時30分からとなっております。出荷を予定されている方は寒冷対策などを行ない、事故や疾病等無いよう、お願いします。



益田税務署からのお知らせ

申告と納税は期限内に！

所得税及び復興特別所得税、贈与税の申告・納税は

3月16日(月)まで

個人事業者の消費税及び地方消費税の申告・納税は

3月31日(火)まで

確定申告書の作成は、便利な「確定申告書等作成コーナー」で！

作成した申告書は

e-Taxで送信

書面提出



e-Taxで送信
又は書面で提出



※事前準備が必要です。

マイナンバーの入力と本人確認書類の提示又は写しの添付が必要です。ただし、e-Taxで送信すれば本人確認書類の提示等は不要です。



便利で確実な

振替納税をご利用ください

納税のために金融機関や税務署に出向く必要がなく、大変便利で確実な納付方法です。

お申込みは、「預貯金口座振替依頼書兼納付書送付依頼書」に必要事項をご記入・押印の上、申告期限までに税務署又は金融機関に提出してください。

「預貯金口座振替依頼書兼納付書送付依頼書」の用紙は「国税庁ホームページ」からダウンロードできます。

令和元年分の振替日

【所得税及び復興特別所得税】 **4月21日(火)**

【消費及び地方消費税(個人事業者)】 **4月23日(木)**

詳しい情報は国税庁ホームページへ

国税庁

で **検索**



問い合わせ先/益田税務署 TEL(0856)22-0444(代表)

令和2年度

各種検診予定日のお知らせ

腹部超音波（腹部エコー）検診

4月9日（木）	匹見支店
4月10日（金）	匹見下地区振興センター 三葛集会所
5月14日（木）	旧JA北仙道事務所 旧JA種事務所
5月15日（金）	JA益田東支店 旧JA鎌手事務所
6月4日（木）	旧JA豊川事務所 JA美都支店
6月5日（金）	JA中西支店
6月25日（木）	旧JA二条事務所
6月26日（金）	美濃公民館
7月20日（月）	JA六日市支店
7月21日（火）	JA六日市支店
8月4日（火）	七日市公民館 蔵木公民館
8月5日（水）	JA柿木支店 朝倉公民館
9月30日（水）	JA西益田支店 高津公民館
10月6日（火）	多田公民館
10月7日（水）	下本郷ふれあい会館
3月2日（月）	JA日原経済センター
3月3日（火）	JA日原経済センター
3月4日（水）	戸田小浜コミュニティセンター
3月5日（木）	JA津和野経済センター

胸部CT検診

9月9日（水）	JA中吉田出張所 JA六日市支店
---------	---------------------

巡回人間ドック

10月8日（木）	ふれあいホールみと
10月9日（金）	安田地区振興センター
10月16日（金）	日原池河公民館
12月4日（金）	JA中吉田出張所

担い手人間ドック

10月15日（木）	津和野なごみの里
12月3日（木）	JA中吉田出張所

農業者・女性部検診

10月15日（木）	津和野なごみの里
10月16日（金）	日原池河公民館
12月2日（水）	JA中吉田出張所

マンモグラフィ検診

7月22日（水）	JA日原経済センター
11月18日（水）	JA中吉田出張所

大腸がん検診

1月中旬～下旬	郵送にて対応
---------	--------

※日程および会場は変更する場合がございます。

※料金・申込等詳細につきましては随時広報誌等でご案内いたします。

お問い合わせは、JAしまね西いわみ地区本部 企画総務部 ふれあい課
TEL：0856-22-1585 FAX：0856-23-0788



メガネ・補聴器 巡回サービス

こんにちは。『メガネの三城』移動型店舗店長の狩野と申します。
みなさまの町のJA各支店へお伺いさせていただいております。
メガネ、補聴器の調整、ご相談など お気軽にお立ち寄りくださいませ。
JA様でお求めの方はもちろん、他店でご購入の方も大歓迎です。

～ 無料で出来ること、お役に立てることがたくさんあります。～

フレーム+
選べるレンズ付
本体価格 **¥12,000~**
[税込価格 ¥13,200~]

『訪問ご希望のお客様へ』
ご来店が難しいお客様はご自宅まで訪問させていただきます。
ご希望の方は最寄のJA窓口へお問い合わせくださいませ。

お問い合わせはこちらの携帯電話もどうぞ
090-6955-1612
メガネの三城『移動型店舗 クーリエ号』
店長 狩野 昭弘

令和2年 3月の巡回日程

日	月	火	水	木	金	土
1 友引	2 先負	3 仏滅	4 大安	5 赤口	6 先勝	7 友引
8 先負	9 仏滅 ラーバン 9時～12時	10 大安 日原経済C 10時～14時	11 赤口 匹見支店 11時～15時	12 先勝 柿木経済 10時～14時	13 友引	14 先負
15 仏滅	16 大安 津和野経済 10時～14時	17 赤口 六日市支店 11時～15時	18 先勝 益田グリーンセンター 9時～12時	19 友引	20 先負 春分の日	21 仏滅
22 大安	23 赤口 西益田支店 9時～12時	24 先負 日原経済C 10時～14時	25 仏滅 匹見支店 11時～15時	26 大安 柿木経済 10時～14時	27 赤口	28 先勝
29 友引	30 先負	31 仏滅				

経済課より



シロアリ無料調査実施中!!



- こんなお宅は要注意
- 建物の周囲、庭先に古材がある家
 - 庭先でシロアリを見た家
 - 雨漏り・トイが傷んでいる家
 - 羽アリが何匹か舞い込んだ家
 - 近くに山がある家



お問い合わせ先 **JAしまね 西いわみ地区本部 経済課** ☎0856-23-0914
取扱業者 **(株)コダマサイエンス 益田市三宅町3-37 益田営業所** ☎0856-22-5390

タテのカギ

- ①成長すると鶏になります
- ③太陽が東から昇る時分
- ⑥車の方向指示器のこと
- ⑧事故などを現場に居合わせて直接見る
- ⑩工業——。——社会。——政党
- ⑪地震、雷、火事、——
- ⑬真ちゅうやステンレス、はんだなどのこと
- ⑭雑巾を用意して年度末の——をした
- ⑯版画を刷るときに使います
- ⑰旧暦3月の異称です



ヨコのカギ

- ①ひな人形に供える角張った食べ物
- ②守備の反対語
- ③サンとゴの間
- ④兵庫県の郷土料理。地元では卵焼きとも呼ばれます
- ⑤A、B、C……と数えて11番目
- ⑦走ると切れることも
- ⑨京の着倒れ、大阪の——
- ⑪白井義男は日本人初のボクシング世界——です
- ⑫骨と骨をつなぎます
- ⑬白米を量るときに使う単位の一つ
- ⑭父や母の姉妹です
- ⑮——して得取れ

二重マスの文字をA～Fの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

1		8	10		14	16
			C			
		9				
2	6				15	B
		7			13	
3			11			17
4						
5			12			
			A			

答え

A	B	C	D	E	F
---	---	---	---	---	---

応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名（JAしまね全体）の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒698-0024 益田市駅前町15-1
JAしまね 西いわみ地区本部 ふれあい課 「クイズ」係
2020年3月5日（木）（当日消印有効）

◆先月号の答え◆
「チョコレート」



・お預かりした個人情報は、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはありません。

組合員・利用者の皆様へ
（お詫び）

このたび、当組合のいわみ中央地区本部におきまして、職員による横領が発生いたしました（被害総額954,424円、全額弁済済み）。

組合員ならびに利用者の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことに対し、深くお詫び申し上げます。

このような事態を二度と引き起こさないために、農業協同組合としての果たすべき役割と使命を深く認識し、綱紀粛正を図り、なお一層の法令遵守（コンプライアンス）の徹底を図ってまいります。

そして、信頼回復に向けて役職員一丸となり、新たな決意のもとで誠心誠意、業務に邁進する所存でありますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年1月

島根県農業協同組合
代表理事組合長 石川 寿樹

JA島根厚生連



節分で大豆パワーにあやかろう！

節分の日ときくと2月3日を思い出しますが、元来は立春、立夏、立秋、立冬の前日のことをいい、季節の移り変わりのことをさします。つまり、節分は年に4回あるのです。ではなぜ、2月3日を節分と認識されるようになったのか。昔は春の始まりが一年の境と考えられており、2月の立春を一般的な節分と認識しているために「節分」といえば2月と思われるようになったのです。

節分の日に欠かせないもの、それは大豆です。豆まきをした後、歳の数だけ豆を食べることもあるかと思えます。豆を食べるとき、年齢よりも一つ多く食べたりします。「次の年も健康でありますように」と無病息災を願って食べることから、豆まきの後には豆を食べることが多くなったといわれています。

また、「豆を食べるとまめ（健康）で過ごせる」という意味も含まれるという説もあります。

そんな必需品の大豆は、とても栄養価が高く豆の王様といっても過言ではありません。大豆は「畑の肉」といわれているように、豆類の中でも「植物性たんぱく質」が圧倒的に多く、健康維持に欠かせない各種アミノ酸がバランスよく含まれています。たんぱく質は、私たちの髪や皮膚、血液などを作るうえで欠かせない栄養素です。大豆に含まれるたんぱく質には、血中コレステロールの低下作用、肥満の改善効果などの生理機能があるといわれています。肉にもたんぱく質は含まれますが、大豆に含まれるたんぱく質と同量を摂取しようとする、余分な脂質まで摂取してしまう可能性があります。そのため、脂質が気になる場合は、大豆に含まれる植物性たんぱく質を摂取すると良いでしょう。

また、「イソフラボン」という栄養素も聞いたことがあるでしょうか。イソフラボンは、エストロゲンという女性ホルモンに似た働きをしてくれます。そのため、女性らしい体つきにしてくれたり、女性に起こりやすい骨粗鬆症を予防するのに効果があるといわれています。

節分もあり大豆が活躍してくれる2月、しっかり大豆を摂取して大豆のパワーを活用してみてください。



JAしまねは、
出産・育児を応援します！

出産・育児コミュニティ

JALしまね

こども 倶楽部

会員募集中。

JALしまねこども倶楽部は、様々な特典で島根県にお住まいの妊婦さんを応援します。お会いすることを大切に、JAの情報をお届けする事で地域に貢献したいと考えています。

対象 島根県在住でご妊娠中の方

会員期間 ご入会日からお子様の1歳の誕生日末日まで

入会金
年会費
無料



特典 01
ご入会時に
**オリジナル
限定品プレゼント**

特典 02
ご入会から
ご出産まで
**たまごクラブ
お届け**

特典 03
ご出産時に
**記念品
プレゼント**

特典 04
各種 **お役立ち
情報お届け**

詳しくはお近くの支店窓口(または担当者)にお問い合わせください。

会員
申し込みは
こちら



JALしまねこども倶楽部 検索

※特典01から03については最寄りのJA支店よりご自宅までお届けします。(郵送での対応は行なっておりません。)
※特典03の内容は、各地区本部により異なります。詳しくは、該当のJAしまね地区本部窓口にお問い合わせください。



JALしまね 総合ポイントカード「おさいふカード」会員様へ

優待割引のお知らせ

JALしまね ×



メガネの三城

フレーム+
選べるレンズ付
本体価格 **¥12,000~**
[税込価格 ¥13,200~]

1.60 スマホ用	1.60 球面	1.60 非球面	超うす型 1.67 非球面
1.60 遠近両用	超うす型 1.67 遠近両用	1.60 中近両用	1.60 近々両用

メガネ一式
10%OFF!!
補聴器
5%OFF!!

ご利用の際には、提携店舗にておさいふカードをご提示ください。

提携店舗 島根県内メガネの三城 全店 ※他の割引が併用できない商品・サービスが一部ございます。詳しくは係員にお尋ねください。

お問合せ

JALしまね 本店経済部生活課 [TEL] **0853-25-8907**

しまねうれしぴ

料理研究家 土井小百合

JALしまねびより

本誌は地球環境に優しい植物油インクを使用しております。
VEGETABLE OIL INK

あすっこすごもり卵



●材料 (2~3人分)

あすっこ…………… 1袋
卵…………… 2~3個
サラダ油…………… 少々

●作り方

- ①あすっこはさっと洗い、茎は斜め切り、葉は4~5cmに切る。
- ②フライパンにサラダ油をひき、あすっこを炒める。
- ③あすっこをフライパンの中で楕円状に広げて真ん中を開け、中に卵を入れ、半熟の目玉焼きになるようにフタをして焼く。
- ④塩、こしょう、しょうゆ、ソース、マヨネーズなどお好みの調味料をかける。



☆朝ごはんにぴったりの一品です。

忙しい朝にささっと作れて、たんぱく質、ビタミンがいっぺんに取れるバランスのいい食事になります。朝、野菜不足の方にもぜひおすすめです。

エビとあすっこのピリカラマヨ炒め



●材料 (2人分)

エビ…………… 160g	豆板醤…………… 小さじ1
酒・塩…………… 少々	マヨネーズ…………… 大さじ2~3
片栗粉…………… 小さじ2	サラダ油…………… 少々
あすっこ…………… 1袋	

●作り方

- ①エビは皮をむき酒・塩をして片栗粉をまぶす。
- ②あすっこは、さっと洗い、茎の部分は斜め切り、葉はざく切りする。
- ③フライパンにサラダ油を熱し、エビ、あすっこの順に炒める。
- ④あすっこが柔らかくなったなら、豆板醤とマヨネーズを入れ炒める。



豆板醤の辛味とマヨネーズのコクがおいしい、お手軽にできる簡単中華味です。えびを鶏肉に変更してもおいしくできます。

表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通 (ののむらなおみち) 先生に描いていただいています。

今月の表紙は斐川町の万九千神社です。古事記にも登場するこの神社は、神在祭に際し全国から参集された八百万神が最後にお立ち寄りになり、神宴(直会=なおりい)を催したのちそれぞれの国へお帰りになるとの由緒を今に伝えています。平成26年の136年ぶりの遷宮で建て替えられた社殿には、旅行の安全無事や諸願成就などを祈願する人が後をたちません。

編集後記

今月の健康散歩テーマは節分と大豆。昔は節分の豆まきではもちろん豆を投げていましたが、最近では変化があるようです。衛生面を考慮して、バックに小分けした豆や殻付きの落花生を投げるとか。伝統、風情と安全、エコ。時には相反することもあります。何事も時代に沿って上手に折り合いをつけることが大事ですね。(和)

【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。



JALしまね 公式ホームページ
https://ja-shimane.jp/
2020年2月12日付発行 (月1回発行)
編集/JALしまね ふれあい福祉課・西いわみ地区本部
発行/島根県農業協同組合 西いわみ地区本部 ふれあい課
〒698-0024 益田市駅前町15-1 TEL.0856-22-1589 FAX.0856-23-0788